

周辺の山 (宇治田原～荒木山～大峰山～宇治田原)



天皇川谷を登る
9:26



荒木山にて
10:48



高尾へ向う
11:19



四等三角点
11:24



梅林傍を通る
12:30



咲き始めた梅
13:08



弘法の井戸
12:40



大峰山にて
14:14



猿丸神社
15:34



禅定寺の壁画
16:03

名所・旧跡ミニガイド（周辺の山：宇治田原 大峰山、荒木山）

参考資料、京都滋賀南部の山 / 他より

宇治田原：京都府の東南部に位置し、北東部は滋賀県(大津市、甲賀市)の県境となる。大峰山を中心とする山地や南部丘陵地と鷲峰山があり、大和から近江に抜ける古道沿いに集落がある。徳川家康の伊賀越えは歴史に名高い。城郭跡が多く10を越える(後述)。奈良、平安時代には多くの寺院が建立され、禅定寺(991年)もその一つである。近世の動乱で荒廃したが、のちに曹洞宗として復興された。

鎌倉時代には茶の生産が伝えられる。町章は「う」の字のデザインで茶の花の、つぼみを表している。ほかにころ柿が特産品。

(人口10,060人、平成17年)

宇治茶：鎌倉時代、栄西が中国から持って帰った、茶の実五粒を京都栴尾高山寺の明恵に贈った、明恵はそれを栴尾で育てて、土質、気候の合った宇治へ移植されたのが、宇治茶の始まり。宇治の里人たちは、茶の木を植えようとしたが、木と木の植える間隔の見当がつかず、そこで明恵に伺うと、明恵は畑の中に、馬を乗り入れ、この蹄の跡に従って植えるように教えた。

黄檗山万福寺の総門前に駒蹄影園跡こまあしかげえんあととしての歌碑がある。

「栴尾おのえの茶の木 分け植ゑて あとぞ生ふべし 駒の足影」
昔は山門前の一面が茶畑であつたらしい。

ころ柿：11月になると、田んぼの中に大きな柿屋を組み立てて、皮をはいだ渋柿を「簀のこ」のうえに並べ干して「ころ柿」(古老柿、孤娘柿)をつくる風景が各所で見られ、宇治田原の風物詩となっている。品種はつるのこ柿という。「古老柿」：白くなった表面から長老のイメージ、縁起物として使われる。「孤娘柿」：美女石伝説の孤独な娘、独りの娘だから孤娘という。ビタミンC、カリウムが多く、がん予防、高血圧、動脈硬化に良いと言われる。

他県では、「枯露柿」「転柿」表現している所もある。

美女石：むかしは此れといった産業もない高原の寒村だった宇治田原に、どこからか一人の娘がやって来て、里人にころ柿の作り方を教えた。素性を尋ねると、親も兄弟も無い孤児だという、あまりの気高さを怪しんだ里人が、後をつけてみると、禅定寺(後述)のそばの山中に姿を消した。この、みなし児の美女は、実は禅定寺の本尊、十一面観音菩薩で、村人の貧

しさを救うため現れたのだった。禅定寺の裏手の山麓に美女石(岩)と呼ばれる石があって、観世音はこの石の上に顕現したのだと伝える。

大宮神社：祭神は天照大神、大己貴尊、瓊瓊杵命の三神

荒木、郷の口両地区の氏神。光仁天皇の宝亀元年、勅命によって岩山地区の雙葉天神社より荒木の大地に遷宮されたと伝える。

光仁天皇(770~781)/白壁王が62歳で即位。(施基皇子は父、子は桓武天皇)

合祀社として、田原天皇社(施基皇子)、八幡社(応神天皇)

末社に諸戸神社(紀 諸人、娘は白壁王の母)、御霊神社(早良親王)が祀られている。

創建後、平治の乱や、南北朝時代に焼失したがそのたび再建、遷宮された。現在の建物は江戸初期から中期のものという。

大宮神社宝篋印塔：鎌倉時代の宝篋印塔(町指定文化財)や文殊菩薩の梵時が刻まれた自然石がある。神社の下方に7世紀後半に創建された山瀧寺が存在していたことから、谷底から引き上げられたものという。また境内の手洗い鉢は、山瀧寺の塔心礎であったという。

天皇谷：宇治田原に天智天皇の第七子、施基皇子(田原天皇、諡号)が屋敷を構えたという伝承がある。近くの天皇という地名も、そこから来ている。

持統天皇崩御の翌年、邸宅を高尾から清流を下った荒木の里に移されたという。天皇谷の背後の山上に御邸が作られたことから、皇子を祀る社は山上につくられていたという。

高尾(こうの)：弘法大師や田原天皇の伝承が残る十数戸の集落。

平家や信長に敗れた近江源氏佐々木氏が落ち延び隠れ住んだ里と伝える。

3月に梅が咲き、京都市内も遠く一望できる。

俳人と謝蕪村もその景色に驚いたという。

弘法の井戸：むかし高尾のある農家に、旅僧が立ち寄り、水を所望した。留守番の老婆が快く返事したが、なかなか水を持ってこない、旅僧はうとうと、寝込んでしまった。随分経って、老婆は水を勧めてくれた。どこから運んで来たのかと、尋ねると、村に谷川が無く、下の田原川から汲んで来るのだと答えた。僧は老婆の親切に深く感激し、家の前の広場の隅に錫杖で印しを付け、ここを掘って村の井戸にするようにと言い残して山を下りた。老婆の熱心さにほだされて掘ってみると水が湧き出したという。後でこの旅僧は弘法大師

であったと知り、この井戸を「弘法の井戸」として大切に管理されるようになったという。

**おおいんのばば
大院馬場** : 大峰山の山頂近くの平坦地にあった牧草地に、施基皇子の御邸があり、その近くの「大院の馬場」「小院の馬場」と称する馬場跡は、皇子が馬の調教に使用していたという。またこの牧草地の草は、最近まで栗東トレーニングセンターへ運んでいたが、悪路のため中止された。現在は天ヶ瀬サーキット場としてモトクロスミニバイクレース場となっている。

荒木山 : 大峰山の南にあり山裾に荒木城跡もある。
尾根の西に四等三角点 437.1mがある。点名は「平」。

猿丸神社 : 猿丸大夫を祀る。こぶを取去る(猿)から、できものの治癒に靈験あらたかとか。毎月 13 日は特産品の猿丸市が開かれる。
『奥山に紅葉ふみわけ鳴く鹿の 声きくときぞ秋はかなしき』百人一首。
本殿前には狛石猿がある。

禅定寺 : 平安中期の正暦 2 年(991)東大寺の平崇上人が建立、江戸時代に加賀の月舟禅師が復興、曹洞宗に改められる。本堂は葺葺き、本尊は藤原時代の十一面観音像。
本堂裏のコンクリート壁に高さ 8 尺幅 4 5 尺の大壁画(仏画)がある。

建藤神社 : 1223 年、上下の建藤神社が造営される。現在の社は江戸時代寛政 6 年(1794)年の三間社流造り。祭神は藤原氏の祖で天児屋根命。
明治 41 年下社と合祀される。禅定寺地区の氏神。

宇治田原の城(中世の城郭、近世の城は無い/参考HP)

- 1 山口城跡 : 郷之口小字田中の「城館」、宇治田原城ともいう。本能寺の変の知らせを聞いた徳川家康は、わずかの家臣と逃れ、河内飯盛山から青谷を経て、山口氏の郷之口城で休息、裏白峠から伊賀越えで伊勢に入り、海路で岡崎に回避した歴史がある。
- 2 荒木城跡 : 荒木地区荒木山山裾。
- 3 岩本城跡 : 岩山地区城山、宇治田原を代表する中世の城郭(南朝方)郭、土塁、土壇等、山林に完存し、道も整備されている。
- 4 岩本西城跡 : 岩山地区城尾、(鎌倉～室町期)田原道に面する。
- 5 筒井谷城跡 : 岩山地区口筒井谷(鎌倉)田原道を望む、建藤神社の南。

- 6 贅^ね田城跡：ね田、小字植山、(砂利採集で消滅)
- 7 城田城跡：南地区城田、(鎌倉~室町期)麓の館(現加美氏の住宅)
- 8 脇神城跡：南地区脇神、(砂利採集で半壊)
- 9 城山城跡：禅定寺地区城山、禅定寺の西。(鎌倉期)
- 10 庄地城館跡：禅定寺地区庄地。
- 11 禅定寺城跡：禅定寺地区奥城土、(鎌倉~室町期)砂利採集で半壊している。
禅定寺峠と呼ばれ昔は大津に抜けていた。峠関所。
- 12 釜ヶ谷城跡：湯屋谷地区釜ヶ谷。
- 13 段橋城跡：立川地区段橋、大道寺の北。
- 14 野田城跡：立川地区野田。
- 15 糠塚城跡：立川地区南垣内、砂利採集で半壊。
- 16 引石城跡：奥山田地区引石、信楽街道に面する。
- 17 城之越城跡：奥山田地区伏部、信楽街道に面する。

中世の城(城郭)は、全国で数万箇所も有り、地方の小さな領主の象徴的な施設であった。戦場の場となったのは、少ないといわれる。